

4

情報部

非管理メモ

H23.06.07①議事メモ.doc Last printed 6/7/2011 3:35:00 PM

3枚

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

んじふん
さきふん

東電保安院内
分室入り

日時：平成 23 年 6 月 7 日 (火) 11:00~11:40

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者約 35 名 (カメラ 5 台)

当方：原子力・立地本部
原子力設備管理部
広報部

配布資料：

- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (6月7日6時現在)
- ・ 福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況
- ・ 集中廃棄物処理施設周辺サブドレン水核種分析結果 (6月6日採取分)

質疑

Q. 昨日発生した集中廃棄物処理施設の焼却工作建屋での作業員のけが人は、協力企業の社員か。通訳ということだが、国籍はどこか。また手術をしたということだが骨折という診断結果で良いか。

A. けがをされたのは協力企業の社員であり、日本国籍の方である。肋骨の骨折とは聞いているが、詳しい症状は不明であり、診断結果を待ちたいと思う。

Q. 4号機使用済燃料プールの支持工事は本日何時から着手しているのか。

A. 既に支柱材を搬入し始めていると思うが、具体的に本日何時から搬入しているかは夕方の会見でお知らせさせていただく。

Q. 4号機使用済燃料プールの支持構造物設置工事で使用される支柱材の寸法、長さ、また材質は。

A. 20cm角、長さ2mの鋼製の支柱材であり、それをつなげて約8mにしたものを約30本用意する予定。

Q. 4号機使用済燃料プールの支持構造物の設置完了は今月の中旬ということだが、何日になるか。

A. 具体的に何日に設置完了するかまでは、現時点で分からない。

Q. 4号機使用済燃料プールの温度の最新値は。

A. 最新の温度は87~89℃。

Q. 昨日けがをした作業員が通訳ということだが、水処理システムの工程に遅れが出ないのか。

A. 代わりに通訳の方がいると思う。特に工程に遅れが出るという報告はない。

Q. 先日、免震重要棟で作業員に風邪の症状があったようだが、ウィルス対策の空気清浄機などは設置されているか。

A. 免震重要棟には、通常の換気と微粒子を吸着するような空調機はあるが、特別なウイルス対策は実施していない。今後、医者と相談しつつ、患者の発生数などを見ながら判断していきたい。

Q. 新しく放射線従事者になる作業員へ教育は行っているのか。また教本等はあるのか。
A. 放射線従事者になるための教育はJビレッジ等で行っている。当社にも放射線従事者になるための教育の教本はある。

Q. ゼネコンの下請けも同様の放射線従事者の教育を受けているのか。内容に差があるのか。

A. 全員受けていると思う。教育の内容に、どのような差があるのかについて確認させていただく。

Q. ふくいちライブカメラに犬が写っていたとの情報があるが、犬が発電所構内に入ってくることはよくあるのか。また、構内に入り込んだ犬を探したりしないのか。

A. フェンスを乗り越えたり、穴を掘るなどして、構内に入り込むことはあるかと思う。現時点では、避難されている方が元の場所に早く戻ることができるよう、プラントの復旧作業を優先している。敷地内には小動物などもいると思うが、人員を割いて動物を探すということはない。

Q. 昨日けがをされた作業員がいるということだが、東京電力、協力企業など労働安全衛生委員会の体制はどうなっているのか。発注者である東京電力はどのように管理していくのか。

A. 当社では、労働安全衛生委員会は発電所ごとに設置している。協力企業に関しても、法律に基づいて設置していると思う。何か問題があれば発注者として意見していく。

Q. 産業医の配備状況はどうなっているのか。

A. 厚生労働省にご協力いただき24時間常駐できるような体制を整えている。発電所の作業員が体調不良を訴えたりけがをされた場合は、発電所の医務室で手当が可能である。

Q. 今後、協力企業の健康管理の対策に関して、専門家に協力を仰ぐ予定はあるか。

A. 各協力企業に健康管理をお願いしているが、今後、熱中症などを防ぐため、水分の補給や作業前の体調確認など十分やっていただきたいと思っている。

Q. 今後、作業員が厚生労働省で労災認定された場合、東京電力としてどのように対応していくのか。

A. 労災に認定された場合は、法律に従って適切に対応して参りたい。

Q. 昨日保安院が公表した炉心状態の解析結果について、東京電力との結果の違いに関して、どのような認識か。保安院の解析結果によって精度は向上したのか。

A. 解析の前提条件が違うため、それぞれ異なる結果となったと認識している。どちら

の結果が正しいというものではない。今後、プラントの状況や現場の確認が進み、新しい条件が判明すれば、精度は向上していくと思う。

Q. 東京電力の炉心状態の解析条件では、1号機への海水注入開始を3月12日19時4分ではなく3月12日20時20分からということで解析したのか。また、改めて1号機の海水注入開始時間を修正して解析を行う予定はあるのか。

A. 確実に海水注入したという条件で解析したので、3月12日19時4分からではなく、3月12日20時20分からの注入を条件としている。しかしながら、3月12日19時4分よりも前に炉心の損傷が起こっているため、事故の進展にはあまり影響がなかったと考えている。海水注入開始時間を修正後、炉心状態の解析をするのかは確認させていただく。

Q. 海水注入開始時間が変更されるのであれば、放射性物質の放出量の解析結果にも影響するのではないか。

A. 海水注入前の炉心損傷・ベントにおいて大部分の放射性物質の放出が終わっていると見ており、海水注入開始を3月12日19時4分に修正したとしてもあまり影響はないと考えている。

Q. 1号機原子炉格納容器B系で247Svの値を示しており、これを「計器不良」と判断した理由は。

A. 同じ原子炉格納容器を測定するA系とB系で計器の指示値が大きく違うので計器不良と判断している。現時点で原子炉建屋で十分に作業できない状態なので、計器校正時期の見通しはたっていない状況。

Q. 福島第一原子力発電所にあるホールボディカウンターの設置台数は4台か。また、現在使用できるのか。

A. 福島第一原子力発電所にホールボディカウンターは4台あるが、バックグラウンドが高いので使用できない状況である。

Q. 水処理装置は6月15日に運転開始か。仮に6月20日までに処理開始できないと水が溢れるのか。

A. トレンチ、立て坑、ピットの閉塞作業を終えているため、水位がO.P. 4,000mmを超えたとしても直ちに漏水するわけではないが、立て坑から地下水にしみ込むリスクがあるのでO.P. 4,000mmを超えないような管理をしている。

水処理装置を20日以前に稼働させることで溜まり水を減少させたいと考えているが、万一、水処理装置の稼働が遅れたとしても、プロセス主建屋には1,500t、雑固体廃棄物減容処理建屋には1,000t、1号機の復水器へ1,200t程度の水を移送する余地があるので、それらに移送するなどの対応をしたいと考えている。

以上

権限共有

(2枚)

非管理メモ

官邸班殿
NISA班殿

プレス対応TM

※分室手渡しのみです。

東電株式会社

プラント状況(本店レク) 議事メモ

日時: 平成 23 年 6 月 7 日 (火) 18:00~18:40

場所: 東京電力本館 3 階大会議室

先方: 記者約 40 名 (カメラ 5 台)

当方: 原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料:

- ・ 福島第一原子力発電所の状況
- ・ 福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について (第七十四報)
- ・ 福島第一原子力発電所付近の海水からの放射性物質の検出について (第七十六報)
- ・ 福島第一原子力発電所取水口付近で採取した海水中に含まれる放射性物質の核種分析結果について (6月6日採取分)
- ・ 福島第一原子力発電所タービン建屋付近のサブドレンからの放射性物質の検出について
- ・ 茨城県沖における海水中の放射性物質の核種分析結果について (続報 4)
- ・ 福島第一原子力発電所における核種分析結果の嚴重注意に対する対応について (続報 4)
- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (6月7日 12:00 現在)
- ・ 福島第一原子力発電所モニタリング結果 他

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑:

Q. 取水口付近の核種分析結果を見ると、最近数値が上昇しているようだがどう評価するか。

A. 海水中の放射能濃度は、潮の満ち引き等の影響を受けているため数値は日々増減しているが、ヨウ素は8日間の半減期を経て濃度が半減している。セシウムについては、半減期がそれぞれ2年、30年と長いため、海水中への拡散や沈降が考えられる。ただ3号機の取水口から放射線物質が漏出した時のように全核種の濃度が上昇している訳ではないため、放射性物質が漏出していることはないと考えている。

Q. 取水口付近において5月11日からのヨウ素131の経時変化を見ると、ヨウ素の半減期が8日間にも関わらず、放射能濃度が半減していないように思える。新たな漏洩が発生しているのではないか。

A. 1号機パースクリーン付近(シルトフェンス外側)の海水放射濃度データは、5月11日から6月6日までの28日間に渡り測定をしているが、ヨウ素の半減期を考えると濃度が約8分の1になるのが妥当と考えている。測定結果も近い値になっていることから漏洩はしていないと考えている。ただ6月5、6日の数値が上昇していること

から、今後の経緯を注意深く見守りたい。

Q. 専門家の中には、シルトフェンスは放射線物質の拡散防止にあまり効果が期待できないとの見解を示す方もいるが東電はどう考えているか。

A. 海水が湾内外で自由に往来できないという意味では効果があると考えている。4月中旬にシルトフェンスを取り付ける前は、放射能濃度の低下傾向が大きかったことから、一定の効果があるのではないかと考えている。

Q. 雑固体廃棄物減容処理建屋の水位が上昇しているが、3号機タービン建屋地下の溜まり水の移送を停止して以降、水位はどの程度上昇しているか。また地下水の水位と比較すると、雑固体廃棄物減容処理建屋の水位はOPでどの程度か。

A. 確認する。

Q. 1、2号機サブドレンの放射能濃度が他のサブドレンより高いがその理由は。

A. 1、2号機はサブドレンに入ってくる地下水の集まり方が他の号機と異なっているのではないかとと思うが、理由は不明。

Q. 1号機原子炉建屋の溜まり水が廃棄物処理建屋を経由して、2号機タービン建屋に流入しているというのは、いつ判明したのか。

A. 1号機原子炉建屋の水位が高いこと、1号機タービン建屋の水位があまり変動していないことから、1号機原子炉建屋の溜まり水が廃棄物処理建屋を経由し、2号機タービン建屋に水が流入していると判断した。判断した時期は5月下旬頃。

Q. 水の流れを目視で確認したのか。

A. 水位は把握しているが、流れは確認していない。

Q. 他の建屋と比較すると1号機原子炉建屋の水位が高いが、今後他の建屋と同水位になるのか。

A. いずれ2号機タービン建屋と同じ水位になると考えている。1号機原子炉建屋溜まり水の水位の下がり具合も緩やかになってきている。

Q. いつ頃から上記ルートで水が流れていたと考えているか。

A. 明確な時期は不明だが、先日大雨が降った際に、1号機原子炉建屋の水位が大幅に上昇して以降、水位が低下していることを確認している。

Q. 2号のタービン建屋の水位は、1号機原子炉建屋から流入した水量だけ上昇しているのか。

A. 2号機原子炉建屋への注水量と1号機からの流入した分だけ水位が上昇していると考えている。

Q. 水処理システムの試運転の進捗状況は。

A. 今のところ順調に進んでいる。現在漏洩確認をしているが、水漏れ等もなく工程通り進んでいる。明日の午前中に、本日の実績や当日の予定を発表できると思う。

Q. 千葉工業大学の「Quince」が福島第一へ導入されるのはいつか。

A. 6/9(木)。どのような作業に使うかは未定。

Q. 海水の核種分析結果中の夏井川沖合3kmのサンプリング結果において、セシウム134はND、セシウム137は4.9Bq/Lとなっているが、同じくらいの数値を示すはずだが、片方だけNDになった理由は。

A. 海水の濃度限度の5%範囲であり、セシウム134はNDで、セシウム137は僅かに検出されたということ。

Q. 水処理のシステムを稼働させる前に、各タービン建屋の溜まり水の濃度測定は行わないのか。

A. 3月の測定値を使って水処理システムの設計を進めている。

Q. 3月の測定値と現状は変わっているのではないか。

A. プラント状況に大きな変化がないことから、変わっていないと認識。なお、ヨウ素は半減期が短いので相当量減衰していると考えている。

Q. 放射性物質の総量は増えているはずではないか。

A. 溜まり水の量は増えているので、総量としては増えている。

Q. AREVAのシステムはバリウムなどが除去できないと思うが。

A. その他の核種についても一定程度の核種は低減できると考えている。

Q. それほどの段階でどの程度除去できるのか。

A. ゼオライト等で吸着されるものもあり、またアレバの凝縮沈殿においても一定量凝縮できると考えている。

Q. セシウム、ヨウ素、ストロンチウムだけを考慮しており、その他の核種は考慮せずに汚染水処理システムを組み上げているということだったが。

A. 凝縮する可能性があると考えている。汚染水処理システムの入口、出口の核種分析でもわかると思量。

Q. 入口・出口の核種分析はいつ行うのか。

A. 計画はないが、適宜、入口・出口の核種分析を行いたい。

Q. 本日、1Fに厚労省が立ち入り検査をしているがどのような内容だったのか。

A. 福島労働局が1Fに入り、東京電力の現場管理について確認された。コメント・指摘等については確認する。聞き取り調査を実施して内部調査の数値を確定させたい。

Q. 250mSv 越えの作業員の方への聞き取り調査結果は。

A. 聞き取り調査実施し、内部線量の確定をしたい。来週には報告できると考えている。

Q. 休憩所の利用状況は把握しているのか。

A. 休憩所は、東京電力および協力企業が作ったものがあり利用の促進を促しているが、利用実人数の把握は行っていない。

Q. 休憩所に入る際には除染することから人数の把握ができるのではないか。

A. 確かにその通りだが、現状利用人数の把握は行っていない。今後については、必要性に応じて判断していく。

Q. 4号SFプールの支持構造物における本日作業実績について教えてほしい。

A. 本日は、1本目の支持構造物を設置している。

Q. 配布資料のプラントパラメータについて、4号のSFプール温度が今朝の会見内で紹介された直近の数値に変わっているが、今後は毎日提供してもらえるのか。

A. 測定方法が確定したことから、今後はそのように対応していきたい。

Q. 4号のSFプール温度の測定方法はどのようなものか。

A. 燃料交換機の手すりからプールに測定器を垂らしている。また、常設である。

Q. 循環型海水浄化装置の試運転はいつか。

A. 本日から明日にかけて、ケーブルの敷設・受電作業を行う。試運転は9日(木)の予定。

Q. 循環型海水浄化装置の試運転が遅れている理由はなにか。

A. 電源板から装置に繋がるケーブルに絶縁劣化が見られたことから、ケーブルの再敷設を行っているもの。

Q. 試運転が3日以上遅れているが大変な作業なのか。

A. 人のやり繰りなどもあることからこの時期になったもの。

以上